

と、ガラスごしに声をかけました。気がつくくと、病院の先生やかんごしさんたちが、にこにこしてちえ子を見ていました。ちえ子は、何だか、元気がもりもり出てきました。



|| おじいさんの顔

太陽が^{たいよう}かんかんてりつける夏休みのある日、母としんせきの家へ行くために、電車をまっています。ホームは、電車をまつ子どもやおとなでいっぱいでした。

「日曜日だから、とくべつ多いのね。このぶんじゃ、ずっと立ちっぱなしよ。」

と、母は言いました。

やっと電車が来ました。立っている人が大ぜいいます。ドアがあき、つぎつぎに人がおりてきます。さい後の人がおりると、ぼ

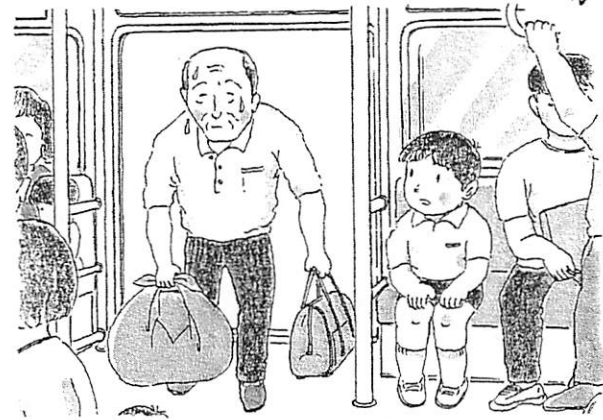
くはさっと乗りました。ドアのそばに、せきが空あいているのが見え
ました。ぼくは、急いそいでこしかけました。こんなにまんいんな
のに、よくこしかけられたものだとうれしくなりました。

四つめの駅えきで、たくさんの方がおり、母が向むかいかわのせきにこしかけているのが見えたので、ほっとしました。

そのとき、大きなふろしきづつみとかばんを持もったおじいさんが、

「どっこいしょ。」

と言って、乗ってきました。おじいさんは、ぼくの前に、その重おもそうな荷物にもつをおくと、



せきが空あいていないか見回しました。おじいさんのしわだらけの顔は、あせでびっしりです。

「たいへんだなあ。このおじいさん、どこまで行くんだろう。せきをゆずってもいいが、はずかしいし、次つぎの駅でどこかのせきが空あくかもしれない。」と思おもいながら、そのままじっとしていました。次の駅に着つきましたが、せきは空あきません。

「どうぞ。」と言いおうとしましたが、なかなか言い出いせません。おじいさんは、ハンカチであせをふいては、大きなため息いきをついて立たっています。ぼくは、体じゅうがあつくなり、おねが、どきどきしてきました。

電車が動き始めると、おじいさんの体は大きくぐらつきました。

「どうぞ。」

ぼくは、いつの間にか立っていました。

おじいさんは、

「ありがとう。ありがとうね。」

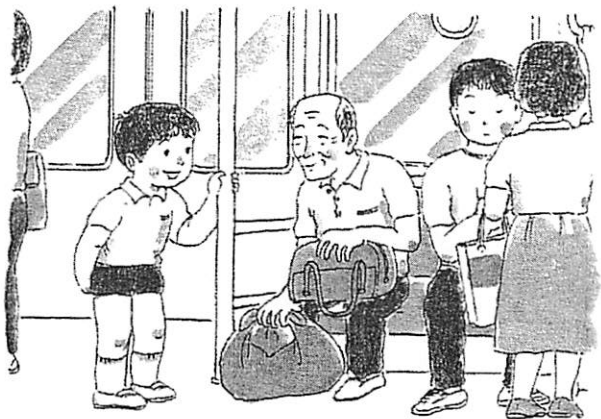
とくり返しながら、顔をにこにこさせてこしかけました。

三つぐらい駅をすぎると、おじいさんは、

「おかげで助かったよ。」

と、またおれいを言つて、電車をおりていきました。

ぼくは、今でも、あのおじいさんのうれしそうな、にこにこした顔をわすれることができません。



12 リレーの練習

今年も運動会が近づいてきました。クラスのみんなが

一番気にかけているのが、学級対抗リレーで何位になるか

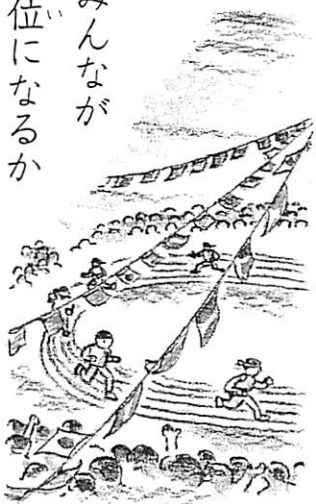
ということ。ぼくの学校では、学級全員を二つのチームに分けて、三クラス

六チームで走る学級対抗リレーを、一年から六年まで学年ごとに行っています。

昼休みに、まさる君やたかし君とリレーのことを話していると、同じチームのくみ子さんも話に入り、

「去年は三位でくやかっただけ。だけど、しかたがないわね。あまり練習しなかったもの。でも、今年はずっと一位をとりたいわ。みんな、どう思う。」とたずねました。すると、まさる君が、

「今日から後にはみんなで練習してみようか。」



11 おじいさんの顔

2-1(2) 相手のことを思いやり、親切にする。
(思いやり・親切)

①主題設定の理由

〈ねらいとする価値について〉

他の人に接するときの基本的姿勢に関するものであり、相手に対する思いやりや親切な心をもち実践できる子どもを育てようとする内容である。人間関係が冷ややかになっているといわれる現代では、自分の思いを他者へ寄せる、手を差しのべることが特に必要とされている。そのためには自己と他者の人格の尊厳に対する互いの敬愛がなくてはならない。

相手の気持ちや立場を考えることは難しいが、明るい人間関係をつくる上で、大切であることをわからせたい。

〈子どもの実態について〉

この期の子どもは、友達や知人に対して役立つたいとか、親切にしたいという意識もっている。困っている人や不幸な人へのいたわりの気持ちももっている。しかし、はずかしい、めんどろだといった自己中心的な考えから、困っている人に対して見知らぬふりをすることもあり、また口先だけ合わせることもある。日々の生

活の中から相手をおもひやる心を育てていきたい。

〈資料について〉

主人公は満員の電車の中でやっと席に腰かけることができたが、そこには大きな荷物を持ったおじいさんが乗ってくる。席をゆずろうかやめようかと悩むが、はずかしくてなかなか言い出せない。けれども主人公は思い切って席を立ち、おじいさんに席をゆずる。そのあと心からうれしい気持ちになる。

おじいさんに同情はしても、親切な行為をすることの難しさを十分話し合わせたい。席をゆずってあげたくても言い出せない葛藤場面をおさえた後、「どうぞ」と思い切ってゆずることができた主人公の姿は、子どもたちの共感を呼ぶだろう。相手の気持ちを考え、おじいさんもきっと喜んでくれると思って親切にしたことが大きな思いやりを育てることにつながる。

②ねらい

相手の気持ちを理解し、温かい心をもって親切にしようとする態度を養う。



□板書

③展開

学 習 活 動	支 援 上 の 留 意 点
(1) 汽車やバスに乗っていて、席をゆずったりゆずられたりした経験について発表する。	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちの経験を発表し合う中で、資料への関心がもてるようにする。
(2) 資料「おじいさんの顔」を読んで、主人公のぼくの様子について話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> 周りの状況をしっかりおさえ、席にすわれた主人公の気持ちを話し合いながら、共通の問題意識がもてるようにする。 ゆずる心とゆずらない心の二つの心に分けて役割演技へと導く。
① 満員電車の中で席に腰かけることができたとき、ぼくはどんなことを思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 迷った末、やはり席をゆずろうと決心した主人公の気持ちを話し合い、席をゆずったのは、主人公がおじいさんの立場を思いやり、温かい心をもったからだということを考えられるようにする。さらにその奥には、相手の喜びを信じて行動した主人公のより深い考えがあったことにも気付くことができるようにする。
② 大きな荷物をかかえたおじいさんが前に来たとき、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> 親切な行動をしたあとのすがすがしさや充実感に共感できるようにする。 心のノートP38を手がかりに考えるようにするのもよい。
③ ぼくは、どんな考えで「どうぞ。」と言って席を立ったのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 人に親切にすると心も温かくなってくることを話し、実践意欲が高められるようにする。
④ 席をかわってあげたあと、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。	
(3) これまでの自分たちの生活を振り返る。	
④ 席をかわってあげたあと、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。	
④ 席をかわってあげたあと、ぼくはどんな気持ちになったでしょう。	
(4) 教師の話聞く。	